

私が担当した通級教室では自立活動を中心に学習していました。

ですが生徒のニーズにこたえて教科の指導も行っていました。これが通級で使った学習プリントです。生徒によって違いがありますが、毎回プリント学習した生徒もいました。

一年間継続して一つの教科のスコアが残った生徒は2名しかいなかったなのでそのスコアです。傾向からすると他の生徒に当てはまるようにも思います。

最初の正解率を100としてプリントの正解率を記録していました。

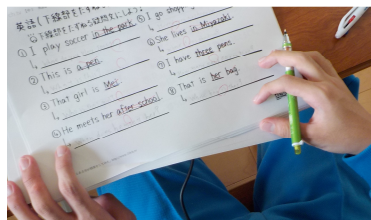
プリントの項目をビデオで見たり、個人講義をしてからプリントを書かせる形式でしたのでも40%くらいの正解率がありました。この学習の正解率、どんな時にどんな時期に向上が見られたかスコアを見てみましょう。

5教科すべてやっていましたが、毎回のよう
にやっていたのが英語だったので、英語の学習
プリントの正解率、最初期を100とした比較の
グラフです。成績の向上はなかなか難しく3年
生になるまで低空飛行をしたと思います。

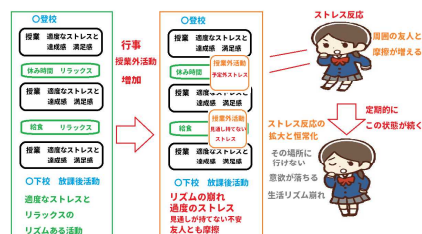
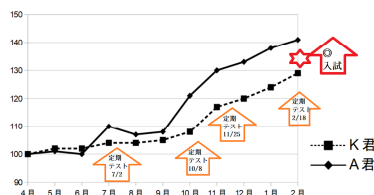
グラフは3年生になって効果が出てきたグラフです。後半学習効果が上がっていますよね。

このグラフだけを見たら、何で今まで効果が現れず、3年のこの時期向上したか、判断は難しいです。このグラフにある要素を加筆しました。見てください。

これはこの学校で年四回やっている定期テストの時期を加えたグラフです。



1 年間の学習効果(英語プリント)



テストの時期に合わせるように成績が伸びています。特に2回目、三回目のあたりから上昇率が高くなっています。

これは内申点のかかっている最後の定期テストの時期から入試にかけてです。

今までも五教科の個別指導を行ってきたんですが、結局この時期に伸びたのです。

やはり定期テスト、内申点や、入試は生徒の将来がかかる大事なテストです。これは動機として大きいものだと思います。

それまでLDだとか、発達障害だとか原因を探ってきたんですが、必要性を感じた時には勉強もして、効果を上げることができたのです。

障がいが中度や重度で、学習効果を上げるのが難しい場合もあると思いますし、その時も動機だけで向上できるかは不明です。しかし通常学級に在籍し、中度・重度の障がいがない場合には、動機や意欲で向上できる場合もあると考えます。

動機や意欲というのは学習効果の大きな要素だ、と今更ですが、感じました。

END



学習の効果を上げる要素

*動機 意欲 目標

